

定例教育委員会会議録

平成22年1月25日

境港市教育委員会

平成22年1月25日委員会会議録

招集年月日 平成22年1月25日 16時00分

招集場所 海とくらしの史料館

開 会 16時00分 委員長宣言

出席委員 ① 根 平 雄一郎 ② 岩 田 謙二郎

③ 北 坂 明 子

⑥ 遠 藤 惠 裕

委員長から説明のため出席を求められた者

教育総務課長 下 坂 鉄 雄

教育総務課主査 坂 井 敏 明

教育総務課長補佐 山 根 伸 彦

教育総務課係長 足 立 統

生涯学習課長 川 端 豊

図書館長 池 淵 博

海とくらしの史料館長 大 西 毅一郎

会議書記 教育総務課管理係長 足 立 統

提出議案 議案第1号 平成22年度全国学力・学習状況調査の
参加について

協議事項 海とくらしの史料館の現状と課題について

報告事項 1月の行事報告、2月の行事予定など

遠藤委員長 定刻になりましたので、1月の定例教育委員会をはじめ
たいと思います。今回は海とくらしの史料館の現状を知っ

て頂くということで、場所を変えての開催となっております。
そのことについては、後ほど協議して頂きますが、先
ずは議案第1号全国学力・学習状況調査の参加について
ということで、事務局より説明をお願いします。

教育総務課長補佐

これまで3年間、国の方が悉皆調査ということで全国学力・学習状況調査を行ってきたわけですが、来年度については抽出にきりかえるという風になっております。当初連絡があったのは、全国で40%の抽出で、学級単位での抽出ということでしたが、年が明けてから最終的な連絡が来まして、学校単位でのランダム抽出を行うということで、学級単位ではなくて学年単位ということで行いたいと、ひとつの学校が抽出校になれば、その小学校6年生、中学校3年生は学年で受けるということになってくるという格好になります。抽出になりますので、文科省としてはできるだけ調査の精度を落とさないようにするために、抽出校の選出にあたっては、今年度の実施結果を基にして、95%の確立で正答率の誤差が1%以内となるように抽出を行うということです。鳥取県から抽出校が選ばれるわけですが、それは極めて平均化されていますので、今年度と較べて著しく調査結果が誤差を含むものではないようなことになっております。ただ、市町村レベルまでは配慮されていませんので、市町村で抽出校に当たった学校の結果を持って、それが市町村の結果だと判断することは極めて難しいという風な状況が生まれてきております。抽出については、抽出校について協力するかしないかを回答することができるようになっております。逆に抽出候補校が協力しなかった場合でも、文科省としては他の学校を補充する考えはないということで、抽出候補校になっているところで、協力しないという学校が多くなればなるほど、調査そのものの精度は落ちてくるという風になってきます。

抽出以外に希望利用というものも国の方が言っておりまして、抽出調査の対象外の学校であっても、設置者が希望すれば国から同一の問題の提供を受け、調査を実施することができます。但し採点等に関わる費用については、そ

れぞれが負担してくださいよというのが来年の方針です。そうなりますと調査結果については、学校設置者が管理するという風な形になっております。この希望利用の学校については、県の教育委員会の方が採点についての費用を負担する方向で動いているという連絡が入ってきております。また、その時の問題用紙の利用については制限はなく、きちんと調査を実施しても良いですし、その問題を授業の中で利用するというやり方でも構わないという風に言っております。この度の調査結果ですが、先程言いました抽出になりますので、基本的には調査結果として、各学校に返ってくるものというのは、個人のデータのみです。学校の正答率であるとか、市町村の正答率、そういったものについてのデータは一切返ってまいりません。希望利用で行ったものについても県が採点費用を負担すると言っていますが、これも個人の採点にかかる費用で、そこで学校レベルであるとか、市町村レベルのデータを集計するということは行わないという風になっております。そのような状況の中で、抽出校について協力するのかもしれないのかということ、希望利用をどうするのかということをお場でご判断頂ければなという風に考えております。

先日校長会の方がありまして、そこでもご意見をお伺いしたのですが、積極的に参加するという声はございませんでした。といたしますのが、一点目として3年間調査を行ってきましたのでそれによって全国的なものと比較した状況というのは概ね捉えることができたということがあります。もう一点は子どもの学力向上は学校が第一に取り組むべきことなのですが、学力向上に取り組むということであれば、日々の子どもたちの評価、こういったものを普段の教育活動に生かしていくということが大事かと。実際小学校のほうでは国語と算数については毎年県の診断テストを実施しております。もちろんそれ以外にも単元テスト等していますし、月例テスト等でも日々の子どもたちの学力については把握しております。中学校につきましても、本年度まで全学年で数学、2、3年生で理科の診断テストを実施しておりますし、学年によっては毎月の復習テスト

ですとか、確認テストとかそういったもので子どもの学力の状況というのは把握しておりますので、そういったものを生かしながら日々の教育活動を充実させていくことが、本来子どもの学力向上に結びつくものでないかという風なご意見もありました。直接学校現場とは関係ないのですが、国の責任で始められた調査が希望利用という形はあるにせよ、最終的には市町村の費用負担でやってくださいということ自体が筋が通らないのではないかというような部分も感じております。説明の方は以上です。

遠藤委員長 わかりました。委員さんの方で質問はございますでしょうか。

岩田委員 テストの結果について公開非公開というような問題が出てきた場合に、個人のデータというのは学校の方では把握できないということになるのでしょうか。

教育総務課長補佐 一人ひとりの子どものデータは把握できます。

岩田委員 一人ひとりではできるのですね。あと40%というのは単純に多いのではないかと思ったのですが。

教育総務課長補佐 最初は40%というような抽出率だったのですが、最終的には小学校調査の方は25.4%、中学校の方は43.7%という風になっており、小中合わせれば31.6%という風になっております。都道府県ごとにつきましては、学校間の差が大きい都道府県については抽出校も多くなってきましたので、一律に都道府県何%という風にはなっておりません。

岩田委員 抽出というともっと少ないのかなと思っていましたが、40%弱というのは結構多いですよ。その辺の数字の根拠というところは話が来ていないのですか。

教育総務課長補佐 根拠までは来ていません。

遠藤委員長 小学校の場合7校あるので、3分の1だとしたら、2校か3校になり、中学校は3校しかないので、1校になるのですが、%から行くとそれに近い数字になるのですかね。

教育総務課主査 候補校は、小学校が3、中学校が1校ということで来ています。

遠藤委員長 もう来ているのですね。それは県からの指定なのか、又は市の方で1校選びなさい、3校選んで抽出しなさいというやり方なのですか。

教育総務課長 先程補佐が説明したように、去年までの調査との誤差が少なくなるように、鳥取県で抽出校の21年度のテストの平均を出したものと、県全体で平均を出したものとで違いないような抽出の仕方をとっております。小学校は3校で決まっていますが、境港市の結果としては、21年度のテストの平均とその3校の平均は一致しない。鳥取県全体、或いはそれぞれの都道府県全体の結果で、国全体の結果が今年の結果と一致するような抽出の仕方をとっています。

遠藤委員長 わかりました。教育長さんは何かありますでしょうか。

根平教育長 今の話で抽出が多すぎるというのは民主党の事業仕分け作業の中でも議論されてきました。いろいろあって、最終的にこのような形になったわけですが、実施学年も小6、中3、教科も国語、算数・数学の2教科ということで、行く行くは実施学年や実施教科についても改善をするが、来年は従来の流れで行くということです。個人にデータを返すということですけど、実施学年が小6中3ということで、なかなか個人の指導に役立ちません。県版でやっていたときは、小5と中2ということで実施学年も良かったし、教科も5教科やっており、良かったので、これを復活してもらいたいという意見を教育長の会では出したところです。先日も中永教育長が来られまして、抽出調査になったのだ

けれども、調査集計費用については県がなんとかするから、悉皆調査に参加しないかという呼びかけをされました。ただ、先程もありましたが、校長会の方では、やるメリットがあまりないというところで、積極的な参加への意見は出ませんでした。

遠藤委員長

この辺でひとつの方向性を出さないといけないのですが、希望調査に応じるかどうかを決めるということで良いでしょうか。

北坂委員

中3と小6ということで、学校でデータが返ってきても、2学期は運動会や体育祭があって、先生も子どもも忙しく、それが落ち着いてから個人に返すということですけど、中3などは受験もありますし、どう生かしていくのかというところが問題だと思います。境港の場合は学校の方できちんと保護者の方にもデータや自分の学校の状況を説明をして、学校でどのように取り組んでいくべきかというものを説明しているのですが、県の診断テストでも毎年調査して、いつもできない問題というのは大体決まっています。それを工夫をして指導しているのですが、なかなか成果があがってこないということが何年も続いていました。先程の校長会の話にしても3年間やってきて大体自分の学校の傾向というものはわかっていますので、その部分を来年度、学力向上に役立てていければ良いのではないかと思います。授業時間を使ってテストをするので、そういう時間を3年間のデータを活かして授業につなげていった方が良いのではないかと個人的には思います。

遠藤委員長

希望に手を上げるほどではないということですね。

岩田委員

学校現場の判断は学校長になると思いますが、私は希望しても良いのではないかと思います。あまり調査を重々しく考えなくても、試験を一回受けたという感覚で、そこまで大きな負担にはならないのかなと思います。刺激が良い方にプラスになることもあるのではないかと思います。

遠藤委員長

私も基本的には校長会で話が出て、現場の意見は大事なことだと思いますし、その辺のところは一番切実に考えているのではないかなと思います。私は希望までして参加しなくても良いのではないかと考えております。去年まで教育委員会の席でこの話が出たときも、学校で全体的な傾向を見るのなら悉皆にしなくても、抽出で30%なら30%で3校に1校くらいの割合で良いのかなという考えを持っていたのですが、それに伴って開示とかいろいろな問題もでてきて頭を悩ましたこともあります。希望してまでする必要はないのかなと。ただ抽出で当たった学校は仕方ないかなと思いますが。おそらくこの流れを見てみると、だんだん学年とか教科なんかも変わってくるのではないかなと思っています。だいたい中学校3年生が春にやって、11月とかに結果をもらっても本人にとってはどうしようもないわけで。全体的な傾向を見るのであれば抽出で十分じゃないかと。参加しなくても全体的な傾向というのは公表されるのでしょうから、その辺を見ながら学力向上につなげていけば良いと思います。

根平教育長

一昨年の全国都市教育長会議でも文科省に対して、国費を使って悉皆調査をするのではなく、国レベルの状況であればサンプル調査で十分であり、その分浮いたお金で教職員の定数改善に充ててもらいたいという風に言わせてもらったのですが、文科省の方も定数改善に向かいたいということでしたが、財政の方から予算をもらえないというようなことでした。今回政権交代により、悉皆調査から抽出調査になってある程度のお金が浮いたということもあって、先日文科省の副大臣の方から30年ぶりに教職員の定数改善、つまり40人学級を見直すという動きがあり、良い流れになってきています。それをまた悉皆調査に戻そうということで中永教育長は文科省の方に要望をされたようですが、私は県が金を出すので悉皆調査をやってくださいというのはどうかなと感じております。今回は抽出調査だけで十分じゃないか

など考えております。ただ市内の学力向上についてはしっかりとやっていかなければと考えております。

遠藤委員長

わかりました。学校が単独でうちはテストに参加したいという風に手を上げた場合はどうなるのですか。

教委総務課長補佐

希望利用については、設置者が判断することになっていますが、学校ごとに回答することは可能です。メ切は今日までですが。

根平教育長

こないだの校長会では希望意見はなかったです。

教育総務課主査

県の方もどれくらいの学校が参加するかによって、予算も決まってくるので、把握しておきたいということがあると思います。

遠藤委員長

希望調査については希望しないということで良いでしょうか。それでは協議事項に入りたいと思います。どういう風に進めましょうか。

生涯学習課長

館長の方より説明をさせていただいて、その後に館内を見ていただくように考えております。

遠藤委員長

ではお願いします。

海くら館長

海とくらしの史料館は開館が平成6年4月ということで、丸15年経っております。初年度は15万人ほどの入館者がありました。その後9万人、8万人、7万人と減少傾向にあり、平成17年には2万4千人まで落ち込みました。平成18年に巨大マンボウ「チョボリン」の効果で4万人あまりまで増えましたが、3年過ぎまして20年には2万人を切りました。今年は不景気の影響もあり、2万4千も厳しいかなと思っております。高速道路千円の効果もありましたが、寒くなってきてそれも薄れてきております。元は面谷酒造さんの酒造りで使われ

ていた建物を平成5年に改修したものなのですが、平成12年の西部地震でも被害はなかったです。主な展示物は、魚の剥製でこれは700種類4000点ということで、注目はクロマグロ、巨大マンボウ、4mを越すホウジロザメで、他にもいろいろ展示してあります。本物の漁船も展示してあります。2階には、民具展示室もあり、市の文化財も3点ございます。1階には特別企画展示室もあり、橋本興家さんの版画を1ヶ月ごとに入れ替えて展示しております。海とくらの問題点を私なりに考えてみると、開館以来16年経ち、老朽化してきておりますので、リニューアルを考える時期にきていると思います。収蔵品はたくさんありますが収蔵庫が貧弱であり、また収蔵品のデータベース化が必要だと考えております。剥製なんかも展示されていますが、季節ごとに入れ替えを行うなど、目先を変える工夫が必要なのかなと考えております。

遠藤委員長

それでは、館内を観て回りましょうか。
(館内散策)

遠藤委員長

感想なり、意見なりあればよろしく申し上げます。

岩田委員

来館者が多い時期は、いつですか。

海くら館長

ゴールデンウィークとお盆ですね。あと夏休みの時期ですかね。

岩田委員

すばらしい施設であり、できるだけ多くの人に足を運んでもらいたいのですが、施設として中途半端なのかなと。人を呼ばないといけないのか、或いは学習施設として終わらせるのかということで、大事なのは市の施設なので、市民の税金が投入されているということで、入館者が減っているのをやむを得ないという風に思ってしまうのか、或いはもっと人が入るよう魅力ある施設にしていくのか、どうしてもお金がかかってきますので、そ

のあたりを総合的に考えていけないといけないと思います。15年経ったということで、いろいろなものが悪くなって来る時期でもあるので、お金をかけるのであれば、集客の面を考えなければいけないと思います。観光協会とタイアップしてでも、人がたくさん入るような施設を考えていけないいけないと思います。やはり税金を無視できないかなと思います。広報の面でも宣伝看板もなく、もう少しアピールしていけないいけないと思います。

北坂委員

今ごろは小学生等が授業で来ていますか。

海くら館長

以前より減りましたが、岡山県の真庭の方からも来たりしています。市内の学校は授業では来ていません。

北坂委員

私が教員をしているところは、前の館長さんが校長会に出かけてきて、PRしていましたし、校外活動なので、積極的に利用してくださいと勧誘にもこられてました。

また、展示してあるだけで、触って何かをしてみるとか、子どもが魚について興味を持てるようなものがもう少しあると良いのですが。せっかく良いものがあるのに、場所的に水木しげるロードと少し離れているのが残念ですよね。つながっていればもう少し足を運んでもらえると思うのですが。

遠藤委員長

ここの管理はどこになるのですか。

生涯学習課長

主管課としては生涯学習課になりますが、指定管理者として文化福祉財団がやっております。

遠藤委員長

私もPR不足だと思います。他の史料館等と連携して、展示物を交換することなども考えないといけないのかなと思います。また、岩田委員さんが言うように外に向けてのPRをもっとしていけないいけないと思います。水木ロードに看板をつけて、何分の一でも人を引っ

張ってこないといけないと思います。

根平教育長

今年度はDBSが就航したり、滑走路が延長したりと、国際化の中で外国のお客さんにも対応していかないとはいけません。また、原点に戻って、学校や子どもたちが普段自由にこられるような魅力的な施設にしていかないといけないと思います。そして、水木ロードにこられる観光客に対して満足してもらえるような施設にもしていかななくてはならない。16年も経つと老朽化も出てくるし、飽きられてもくるので、その辺を考えていかないといけないと思います。全国的にも博物館等は黒字になっている施設はほとんどないような状況の中で、かといって、税金も使われているので、集客についても考えていかなければならないと思います。

来年度については生涯学習課に学芸員の資格を持った人を配置できないかということ画策しております。また具体的な案としては、県博からマンボウを借りてきて、マンボウ親子の展示をしたいと考えております。或いは夏休みを中心に生きた魚とか貝とか触ったりすることができるようなタッチングプールを出したいと考えております。何万人もきてもらうような大きなイベントはできませんが、少しずつでも入館者が増えるような施策を考えているところであります。

遠藤委員長

言い忘れましたが、橋本興家さんというのは、日本を代表する版画家でもありますので、例えば市展と絡めてやるとか、外との連携でやっていくことが大事なのではないでしょうか。それでは時間もなくなってきましたので、報告事項についてお願いします。

教育総務課主査、生涯学習課長、図書館長 各報告

遠藤委員長

それでは、本日の定例委員会は閉会といたします。ごくろうさまでした。